

ふるさとの鼓動
北に生きる心
むすんで

=ホームページにカラー版を掲載中!=

こぶし

第 150 号

発行責任者：横井 正人
特定非営利活動法人 民族歌舞団 こぶし座
TEL:0138-54-2859 FAX:0138-84-8207
E-mail:kobusiza@wing.ocn.ne.jp

2019年8月30日発行
編集：機関紙局
北海道函館市陣川町 122-172
年 2 回発行
http://kobusiza.sakura.ne.jp/

—主な内容—

- (1) 前半期の公演から
- (2) 「檜山文活と私」(寄稿)
- (3) 第 2 1 回通常総会の報告
- (4) 公演計画(9月以降) ほか



送出し風景…浜中町(全町・小学校)



旅の途中で(八雲パノラマパーク)
「内浦湾」をバックにして…



「こぶし座」青空農園
今年のトマト



鈴木伸吾先生のご実家です!!



5月20日
ヒメコブシ植樹



「函館港まつり」のひとコマ
(長崎からの「龍踊り」)
…実演後に丁寧な説明を伺う…

8月…長崎からの平和の使者!!



「町会・納涼まつり」開幕演奏!
「陣川子ども太鼓」

—青少年育成部子ども太鼓教室—
(太鼓指導はこぶし座が担っています)



佐呂間中学校の公演から…

残暑お見舞い

申し上げます。

みなさま、いかがお過ごしでしょうか？

この夏の全国的な猛暑で、熱中症など体調を崩されてしまった方々がいらつしやらないか心配しております。

例年ですと、市内中心部より気温差で2度ほどは低い「座本部」周辺も、連日、30度越えを記録…。汗だくになりながらの公演部の稽古は、こまめな給水が欠かせませんでした。

*

さて、前半期の活動は、三年連続の特別公演「『四季島』」と併せ、全道域での小・中学校公演が柱となっています。

猛暑の七月は、道東・浜中町「北海道巡回小劇場」の開催。続く八月には、オホーツク・佐呂間町での同事業・中学校公演と遠方にまで走り回りました。

九月上旬には、道南・八雲町の全小学校公演。(三日連続)そして、地元・函館市内での小学校公演と続きます。

また、後半期からは、昨年同様に保育園・幼稚園公演や来期に向けての公演依頼(営業)活動が開始され、十一月からの女性ユニット「ひめこぶし」による一般公演も加わります。

とりわけ、十二月に実施する一般公演は、地元・渡島檜山管内での開催です。特に、十二月五日(木)北斗市での公演は《こぶし座後援会》の主催で、公演車募金運動を強めたいとの思いをのせて取り組まれます。

改めて、後援会員の皆さんはじめ、各地の支持者の皆様のご支援・協力を、よろしくお願い致します。

夏の酷暑に耐えた身体も、かなりダメージを受けたはず、体調管理には充分お気をつけ下さい。どうぞ、お元気で!!

前半期の公演から…

昨年度に引き続き、毎週火曜日実施のJ.R「四季島」が、今年度も4月からスタートしました。前半期は学校公演が柱となり、日程を調整しての活動を全道域で行っています。

7月には、函館市・南茅部地区の3校合同小学校公演、昨年の「胆振東部地震」で中止となった道東・浜中町での全町小学校の再公演を行い、8月にオホーツク・佐呂間町中学校公演。9月に入ってから、三日間かけて実施する八雲町全町の小学校、そして、地元・函館市内の小学校と続きます。

久しぶりにお世話になった、佐呂間町・中学校公演―。「北海道巡回小劇場」の様子を紹介します。

14年ぶりでの実施となった佐呂間町の中学校公演…。

前回の時は、町内に3校あった中学校も統合とな

って、現在は、佐呂間中学校の1校だけとなっていた。生徒数も激減していて、半数ほどという状況には驚くばかりである。

今回は、北海道巡回小劇場として実施する公演で、道と自治体とが予算を出し合って選定した劇団(集団)を招聘する形で行われるものである。

公演日の前々日には札幌へ移動し、前日の午後現地入りして搬入・仕込みを開始。北見市から来てくれた照明スタッフのサポートを受けながら、第一次の舞台づくりを滞りなく終了した。

翌日、午後からの本番に向



生徒会長からの代表挨拶

同期生で、一緒に鑑賞していたはずだ…と話していた。ファイターズファンの私たちにとって、「佐呂間町」が改めて身近な場所となった!!

さて、幕が開き演目が進む。

内容を真剣に受け止めようとする生徒たちのまなざし…。一緒に合唱した「芭蕉布」の優しくのびやかな歌声。獅子に噛まれ、声を上げて喜ぶ嬉しそうな数々の笑顔…。

若くしなやかな感性で向き合う素直な生徒たちを前に、私たちの演奏もいつも以上に力がこもる。中学生との対峙によって、新鮮なエネルギーが身体中に充填されていく。

公演後の生徒会長の感想を交えた挨拶も、誠実さの伝わる丁寧なものであった。

これからも、教師や地域の大人たちに見守られ、人との関わりを大切に思う心を養い、成長し続けて欲しいと願いながら中学校を後にした。

「照明スタッフのこと」

座の公演に、照明スタッフとして同行してくれる奥山氏が、海外での仕事で都合がつかず、北見の仕事仲間を紹介してくれました。北見市の「舞夢」(井村裕太さん)の手厚いサポートで、LED照明でのステキな舞台を演出して頂きました。井村さん、感謝!!

学校公演アンケート

教員の感想(7月公演)

函館市・南茅部地区と、浜中町の先生方から、感想が数多く寄せられました。抜粋して掲載します。

「南茅部地区」

・参加できる演目もあり、あきずに観る事ができたようでした。良かったです。

・地元の芸能にもふれてお話しただいたので、子どもたちも親しみやすかったと思います。

・アイヌの文化等、なかなか子どもたちには教科書での知識伝達しがちですが、実物を見る事ができて、子どもたちが様々な文化に興味をもってくれた貴重な機会でした。

「浜中町」

・音楽を通して様々な文化が知れておもしろかったです。縄文時代から笛があったことなど社会の時間に話題になりました。

・民族芸能を伝えていくのは難しさもあることだと思いますが、子どもの目線に立った、とても親しみやすい内容で、「伝える」と「楽しむ」が両立していたすばらしい内容だったと思います。

・こぶし座の方々の話し方や対応が丁寧で、児童も集中して鑑賞していました。

第21回「通常総会」開かれる。

「胆振東部地震」の影響を乗り越え、より一層、北の大地に根ざし続けよう!!
・新企画「ひめこぶし」の世界「普及開始へ…」

さる、四月二十八日(日) 共通理解を深めました。

「第二〇回通常総会」が行われました。社員総数十七名、出席数十四名。横井理事長の挨拶の後、開会となりました。

*

第一号議案「二〇一八年度事業報告」では、特別事業―J.R東日本「四季島」ツアー客への「アイヌの歌や踊り」の継続実施と、一般公演など、百二十四回(二〇、六五〇人)の公演・講座を行ったこと、また毎年実施の函館市アウトリーチ事業―講師活動のことなどが報告されました。

第二号議案「二〇一八年度収支決算報告」では、「胆振東部地震」により公演が中止になる等の影響を受けた点や財政資金繰りの為に、NPOバンクからの借入を行えた事で繰越金を確保できたこと、また、「公演車募金」活動が後援会による力強い継続支援で、少しずつ前進していることなど、全社員で困難に立ち向かい事業を展開させてきた成果を確認しました。

続いて「監査報告」が行われ、財政状況の実情等について



今年度も全力で頑張ります!! (札幌から参加のメンバーも…)

寄稿

50周年を迎えた
「檜山文化活動講座」:
暑い夏、これからも熱く!!

「檜山文活と私」

檜山文化活動講座
実行委員長 鈴木伸吾

檜山の教職員を対象に行われている「文化活動講座」が50周年を迎え、今年も8月17日に江差町で開催することができました。

この度は、総勢10名が「三宅島木遣り太鼓」の習得を目指しました。一年に一度の開催なので、これまで50年間続いてきたことになりました。

こぶし座の皆さんには、講座の開催当初から、講師として、私たち教職員に、太鼓や踊り、時には横笛も指導していただいています。

私が新採用教員だった頃、同じ学校で勤務されていた三浦美美子先生から「太鼓に興味ない？太鼓の講座があるけど行ってみたい？」と誘われたのが講座に参加した最初でした。

そして、講師をしていたこぶし座の演奏に衝撃を受けました。以来、ほぼ毎年参加したり、お手伝いをしたりしています。

二〇〇八年までは二日間



開催していました。

学習発表会で取り組むために、何とか覚えなければと必死でリズムを繰り返すのですが、一つ進むと前のリズムを忘れ、みんなの前で演奏しようとする頭が真っ白になり……ということが何度もありました。一生懸命叩いた次の日の筋肉痛と、それをほぐすための準備運動の辛さが今でも思い出されます。

ぶち合わせ太鼓・三宅島木遣り太鼓・八丈島太鼓……たくさんのお鼓の演目を教えてもらいましたが、模範演奏で見せていただくこぶし座のバチさばきには、毎年、目を奪われます。「いつかはあんなふうにお鼓がたたけたら

……」と、思い続けて30年近くたちました。踊りの演目の年は、いつも身に付かないまま講座が終了してしまいました。仕方がないので、うろ覚えなのを何とか取り繕いながら、子どもたちと取り組んだこともありました。いつもとは違う習う側に立ってみると、「新しいことを覚えることがこんなにも大変なのか……」ということを感じます。

近年は、講座を運営する役割になつてきました。一昔前に比べると教職員の数自体が減少しているので、講座の参加者が少ないことが課題となつていきます。しかし、若い参加者も毎年おり、講座で学んだ民族芸能を学校で、教室で、子どもたちと一緒に実践しようという意気込みも、参加者全員から感じられました。



講座の終わりに、「今年も一つ、自分の引き出しが増えました。」と、言ってくれた参加者がいました。こんな声がある限り、これからもこぶし座の皆さんと一緒にこの講座を作っていくしたいと思います。

まなぶ

「尻岸内八幡神社例大祭」

宵宮祭に参加して
：神楽が育む地域の絆：

雨模様の中にも拘わらず、役員の方々をはじめ、地域のご婦人たちがや小中学校の先生、子ども連れのご家族など：拝殿のなかは満員御礼！私たちも何とか席に着く。ご挨拶があり儀式が始まると、小さな子ども達までが神妙な顔をして、大人と同じように静かに頭を下げている姿が微笑ましい。

壁際には、「松前神楽」を演じる「神楽会」の子ども達が、烏帽子をかぶり衣裳を身に着け緊張した面もちで正座している。

暫し静かな儀式の時間が流れた。神職による「神楽初」の演奏後、荒木力弥宮司の「榊舞」に続き、いよいよ子ども達達の「松前神楽」の舞が始まった。

白足袋に包まれた足先が静かに歩み出し足拍子を踏む。腰を深く入れ型を決め、緩やかに優雅に天を仰ぐ。途中ふらついた若干のずれや違いがあっても動じることなく、楽に乗って気を揃え、丁寧に

真剣に、無心に舞う子ども達の心が伝わってくる。「鈴上(巫女舞)・二羽散米舞・福田舞・四箇散米舞」全四曲を、小学四年生から中学二年生までの男女七人の子も達、見事に舞い納めた。



子ども達による「四箇散米舞」

汗だくで演じ終えた子ども達のはにかむ笑顔がキラキラと輝いていた。「みんな一生懸命に稽古を重ね、今日の晴れの日を迎えることができました」と、荒木宮司が一人ひとりの子ども達を紹介すると、「素晴らしかったよ、ありがとう！」……拍手を送る大人達の笑顔もキラキラと輝いて、喜びに満ちた和やかな空気が場内を包み込んだ。

格式ある「松前神楽」の伝統を受け継ぐ荒木宮司の深い愛情と地道な活動が、凛として神楽を舞う子ども達の心を育て、地域の絆を深め、ふる

さとの誇りを生み出している事に、深い感動を覚えた。気迫こもる「三番叟舞」を食い入るように見つめる子ども達の真剣な表情が忘れられない。【計良正子・記】



「三番叟舞」…荒木力弥宮司

「松前神楽」は、道南地域を中心とした各神社の例大祭などで行われる神楽のことで、今から三四五年前(一六七四年)、松前藩城下で様々に行われていた神楽を、五代藩主・矩広(のりひろ)が「城内神楽」として統一したのがはじまりと言われ、「松前神楽」として今に受け継がれています。昨年の二〇一八年(平成三十年)三月、「松前神楽」は、国の「重要無形民俗文化財」に指定されました。こぶし座では六年前から、荒木力弥宮司に師事し「松前神楽」の楽曲の稽古を付けて頂いています。

＝公演等の計画＝ (9月～12月) …8月30日現在

《一般公演》

…「ひめこぶし」の世界…

- 11月
 - 26日(火) 洞爺湖町(予定)
 - 27日(水) 室蘭市(予定)
 - 12月
 - 2日(月) せたな町・ふれあいプラザ
 - 5日(木) 北斗市・かなでーる(小ホール)
- …こぶし座後援会主催…
- ※上記の他、八雲町でも計画しています。

《学校公演》

- 9月
 - 4日(水) 八雲町・八雲小(ほか3校)
 - 5日(木) 八雲町・熊石小学校
 - 6日(金) 八雲町・落部小(ほか2校)
 - 25日(水) 函館市・北昭和小学校

《保育園公演》

- 10月
 - 2日(水) 札幌市・はまなす幼稚園
 - 2日(水) 札幌市・川沿保育園
 - 3日(木) 札幌市・栄町あおぞら保育園
 - 30日(水) 函館市・人見認定こども園
- 11月
 - 18日(月) 札幌市・きくすいもとまち幼稚園
 - 18日(月) 札幌市・菊水上町保育園
 - 19日(火) 札幌市・しせいかん保育園
 - 20日(水) 札幌市・うさこ保育園
 - 20日(水) 札幌市・北の星白石保育園

《特別公演》

- 9月
 - 11日(水) 札幌市・(株)「アイワード」
 - 22日(日) はこだての家日吉
- 11月
 - 13日(水) 戸井町「ふれあい学園」

《講座講習》…道南地域のみ記載

- 9月
 - 13日(金) アトリチ鱒川中学校
 - 18日(水) 三育認定こども園
 - 19日(木) アトリチ三育小学校
 - 20日(金) 亀田認定こども園
 - 26日(木) 三育認定こども園
- 10月
 - 31日(木) アトリチ深堀小学校
- 11月
 - 1日(金) 人見認定こども園
- 12月
 - 17日(火) 人見認定こども園
 - 18日(水) アトリチ大森浜小学校
 - 19日(木) アトリチ青柳中学校
 - 20日(金) アトリチ旭岡中学校

※なお、特別事業-JR「四季島」(五島軒)企画の9月以降の実施状況は、下記の通りです。
9月3・17・24日/10月1・8・15・22・29日/11月5・12…今年度は全26回

伝言板

《本部会館・補修(補強)工事》

こぶし座の活動拠点である「本部会館」修繕事業を、毎年少しずつ取り組んでおりますが、今年度は、事務所棟ほかの大屋根などの塗装を中心に実施しました。

いつもお世話になっている「マコト建設」安藤さんに尽力願ひ、8月初旬に無事終了。

また、発注した事業内容のほかにも、会館周りの美化にも気を配って下さり、正面入口にバラ棚を製作しプレゼントしていただきました。(写真左)

*

全道・全国の皆さんからの温かく力強いご支援によって支えられていることに、一同改めて感謝申し上げます。

今後とも、「公演車募金」のご協力をお願い致します。



8年ぶりに行う事務所棟・大屋根の塗装工事

「後援会総会」報告

30回の節目の総会を力に支援の輪を広げよう!!

第30回総会が5月12日、31名の参加で開かれました。冒頭、座の挨拶で「四季島」での演奏が、三年目の今年も継続されることや、女性ユニット「ひめこぶし」の世界への継続実施、被災地支援公演の計画などが話されました。

議事に入り、事務局から現状の会員動向などの報告後、後援会がつくられた経緯やこれまで歩んできた歴史を振り返っての話が、会員個々から積極的に出されました。

そして「三年目の「公演車募金」目標を必ず達成させよう!」などの方針が、全員の拍手で確認され、30回目の節目の総会を終了しました。

*

総会後は、恒例となっている「お花見」が行われ、美味しい焼肉に舌鼓。晴天にも恵まれて、会員交流の楽しい一時となりました。



毎年恒例…総会後のお花見(元輝ファーム提供の特製シギスカン)

【お知らせ】

◇一般公演作品「おはなし『浜の母ちゃん、津軽の嫁』」の主人公…二人のお年寄り…のモデルの方々が無事函館市の旧・戸井町地域で、教育事務所スタッフ等の協力のもと、念願だった公演を『ふれあい学園』(高齢者大学の催しとして、実施できる)になりました。

・11月13日(水)午前9時、戸井西部総合センター

【本の紹介】

「アネサラ シネウプロ」
—アイヌとして生きた
速山サキの生涯—



定価1,800円+税(地湧社)

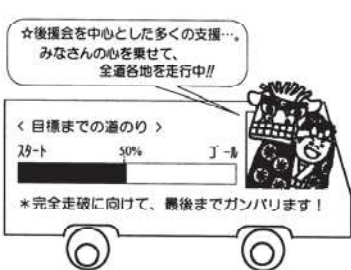
*速山サキさんは、浦河町の姉茶に生まれ育ち、国内外においてアイヌのフチの代表としてアイヌ文化やアイヌ語の普及・啓発に大きく貢献した方です。

*こぶし座は、創立間もない頃からご家族を含め、沢山のことを教わってきました。

《編集後記》

7月末から続いた猛暑には、すっかり参った。「暑すぎる!!」私たちの住む函館も、いや、道内全域も本州各地と寸分変わらずの異常な高温が続いた。毎年、喧しいほどのセミの声も極めて弱々しいものだった…。自然界への影響が心配だが、食物被害ゼロを心底祈る。(徹)

※8月30日現在の到達金額
三百四十一万三千八百七十四円
(後援会十座への募金合計)



《公演車・募金状況》
目標額の50%を超過達成!!
ご支援、ありがとうございます。

《「宮太鼓」の寄贈について》
函館市内在住の後援会員・杉本友子さんより、愛用していたご自身の宮太鼓(二尺六寸を、5月にいただきました。
※早速、様々な活動
で有効に活用中!!